

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



目次

巻頭文、虫めがね・・・2

虫めがね、クラブ活動報告・・・3

学習会、花田会長米寿の会・・・4

区民まつり、
ヒューマンぷらざまつり感想・・・5

区民まつり、
ヒューマンぷらざまつり売上報告、
活動報告・・・6

寄付のお礼、スケジュール・・・7

Ryo'sエニグマRoom、
僕の生い立ち（太田連載）・・・8

バリアフリーよもやま話（岡本連載）
・・・9

Dormitory Life（小野塚連載）
・・・10

夕会便り、クイズ解答・・・11

編集後記・・・12



2013年
12月号



今年も早いものでもう12月、それにしても今年の夏は尋常じゃなく暑かったですね。

ご存知のように、8月12日13時42分に、高知県四万十市で41度を記録しました。これまでの記録は、07年埼玉県熊谷市と岐阜県多治見市の40.9度でした。年々暑くなるのは、気のせいでしょうか。

三木 直人

巻頭文

虫めがね ～会ってみたい偉人～



僕の『会ってみたい偉人』は、坂本龍馬です。なぜかというと、江戸から明治にかけて、日本というこの国を変え、海援隊を立ち上げて、明治維新を起こした人だからです。今もしこの時代に生まれていたら、政治家に「カツ」を入れてほしいです。外交問題や東日本大震災への復興の遅れなど、目に余ることばかりなので「カツ」を入れてほしいと思います。そして、僕の友人ならば風の子に来てボランティアの立場から「カツ」を入れてほしいなあ。

田中 聡

私の会ってみたい偉人は中学校の頃に社会科で勉強した戦国武将の伊達政宗です。中学生時代、社会科の先生から習ったのですが、伊達政宗は疱瘡と言う病気なのにどうやって名だたる武将達と戦ったのか、気になるので聞いてみたいです。目が不自由な中どうやって戦ったかを聞いてみたいです。それが会いたい理由です。

後は織田信長に会ってみたいです。織田信長はカッコ良くて強いから僕は好きです。当時まだ鉄砲が主流じゃなかったころ戦に鉄砲を初めて使って大きな戦果と技術を残した織田信長、僕はすごいと思います。

それから坂本龍馬にも会ってみたいです。なぜなら薩長同盟を組み海援隊と言う組織を作り日本の未来を危機から救った人物だから会ってみたいです。



塚田 愛基



会ってみたいという訳では有りませんが、感謝・お世話になっている偉人(?)を挙げます。やはり僕にとっては、TVゲーム・アニメ関係の社長や監督・作者等携わっている方全てです。個人名・個人団体名等はさすがに挙げられませんが、僕の趣味が有るのはこの人達のお陰なので、僕にとっては此の様な方々は偉人です。

田村 亮彦

虫めがね

～会ってみたい偉人～



私は「ヘレン・ケラー」について述べたい。ヘレンは1880年にアメリカに生まれ、2歳の時に高熱になり視力、聴力、言葉を失い真っ暗闇になった。しかし彼女の両親がパーキンズ盲学校へ家庭教師を依頼し、アン・サリバンが家庭教師としてヘレンの前に現れ、指文字で言葉などを教えた。おかげで話す事が出来るようになったヘレンは精神的に前向きになり、世界各地で講演して身体障害者の地位向上や福祉、公民権運動・婦人参政権運動などの社会活動に貢献した。視覚・聴覚・言語障害を克服して1968年に87歳で死去し、見事にこの世に名前を残した人物である。

私が子供の頃に「ヘレン・ケラー」の伝記を読んだことがあるが、3つの障害を持ちながら、自らの根性と努力も有って、周りの人たちの暖かい支援を得て、とても素晴らしい人生だったと思う。改めて調べてみると、私も身体障害者だが、目が見えて、聴覚障害は少しあるが補聴器をつけば聞こえて、言葉がしゃべれているので、ヘレンの境遇を思うと私も今後も頑張らなければならないと思った。その為にはヘレンがどの様にして指文字を覚えたのか？どうやって色々な活動をしたのかを直接会ってゆっくりと話をしたい。

幸 高史

クラブ活動報告

10月26日（土）にクラブ活動が開かれました。僕とかみさんは読書部なので、かみさんは夏目漱石の「坊ちゃん」を読んでいた。僕はアルセーヌ・ルパンシリーズの「奇巖城」というフランスの小説を読んでいた。



これでクラブ活動は今年で6回行われましたが、読書部は僕とかみさんだけなのでもう少し読書部が増えてこないかなと思っています。

太田稔

学習会報告

（十月二日）港南にある海洋大学へ、学食を食べに行きましたが、メニューの多さにはビックリしました。食後は構内を散歩、さすがは海洋大学だけあって、海辺の動物の剥製がたくさんありました。

（十月九日）区民祭りの準備をしました。

（十月十六日）台風で天気が悪かったので、予定を変更して区民祭りの反省会をしました。

（十月二十三日）水曜学習会の今後の予定を決めました。

（十月三十日）気象の勉強と十一月の三十日に行われる、風の子会三十五周年記念パーティで、メンバーが唄う歌の練習をしました。

担当・太田 圭子

花田会長 米寿の祝い



平成二十五年十一月一日、
風の子会会長花田春兆さんの
米寿を祝う会に松本（母）、
岡本明さん、小野塚航さんと三人でお祝いに
行ってきました。会が始まると次から次と聞いた
ことがない会の名前に、素晴らしい春兆さんの
お友達。そんな素晴らしいお友達がたくさん
いらっしゃる方が風の子会の会長をされている
と思うと、とても誇らしい気持ちになりました。どうぞ
これからもお元気で、風の子会をよろしく願います。

松本 成子

私は風の子会の主的な存在なので、区民祭りには三十回以上出席していますが、遊び好きな性格なので、いつも心の奥には不満がありました。今年は誰の提案かは知りませんが、遊牧民族と農耕民族に分かれ、私は遊牧を選んだので遊びの時間がたっぷり有って、区民祭りを大いに楽しみました。その代わり明るく日の午後からはバッチリ仕事。夕方までの三時間は机の前に座ってお客様を待ち、カレンダーは七本売れました。でもお店番をしていて楽しいことは、以前の職員さんやボラさん達に会えること。私ももう少し頑張らなければと思いました。

太田 圭子

私は初参加だったもので、何も分からず全部商品を見るだけを考えました。休憩中フラダンスを売りました。みんなが商品を買っている間に集合地点に集まる合図がかかってしまい送迎の準備に入ってしまった。フラダンスの他にも周りたかったです。もう少し時間があれば色んなところを見たかったです。そして二日間通しての売上は十六万円でした。そうして区民まつりは幕を閉じました。私はもう少し売れると思いました。今回は全部売ることが出来ませんでした。次回も頑張りたいと思います。

塚田 愛基

今回初めて風の子会さんでボランティアをさせていただきましたが、皆さんいきいきと場を楽しんでいて、いつの間にか自分まで全力で楽しんでいました。メンバーさん、他のボランティアさん、風の子会の皆さんもとても良くしてくださって、協力して何かをすることの楽しさを感じることができました。

また機会があれば、ぜひ参加させていただきたいです。

金 ひろ美

区民祭り 感想

ヒューマンぶらざ祭り感想

前日までの台風が過ぎ去りまさに台風一過となった10月27日の日曜日、毎年恒例となりましたヒューマンぶらざ祭りが午前10時～午後3時まで盛大に行われ、風の子では今回初の試みとして休憩時間を30分延ばして2時間とってみました。そこで分かったのが、スタンプラリーとエレベーターの混雑していることを考慮すると2時間ないと周れない事が判明しました。なにせ7階まであるのですから・・・。午後2時頃武井区長が見え、出店していた全店舗に挨拶周りをしていました。お忙しい中大変ありがたいことです。売上に関しては、6ページをご覧ください。1階の食品は、やはり即時完売のテントが多かったです。

三木 直人

去る十月二十七日、ヒューマンぶらざ祭りが行われました。風の子会はいつもの七階で古本、雑貨などを売りました。会場は、今年も活気を呈していました。僕は早速売り場に入り売り子になりました。今年は早くからお客様が来ていただき、おかげ様で雑貨、古本なども売り切れる品もありました。最終的に売り上げは三万円を超える金額となりました。最後に皆様どうもありがとうございました。

太田 稔

祭りの売上報告

区民祭り売上金額

企画（カレンダー等）
四万二千三百五円

工房
六万六千五百円

バザー
五万九千七百六十五円

第三テント
四千七百五十円

ヒューマンプラザ祭り
売上金額

企画
一万四千九百十五円

工房
八千五百六十円

バザー
一万四千四百円



活動報告

10月12日、13日に、「区民まつり」に参加しました。メンバーを「農耕民族」と「遊牧民族」に分けました。前者が主に売店を手伝い、後者が主に、自由に歩き回り、「区民まつり」を満喫するという感じです。職員、メンバー共に、参加のための準備に追われていました。

10月27日は、「ヒューマンぷらざまつり」に参加しました。大変暑い日でした。

10月は行事が多いので、商品を作ったりで、みんな忙しかったです。

ストーン・ゴッド



寄付のお礼

賛助会にご賛同くださった方

青木 和代 様、吉水 富美子 様、金子 豊 様、長谷川 誠 様、
江尻 ひろ子 様、中井 英代 様、藤森 榮子 様、中山 信孝 様、
野島 喜一郎 様、木田 節子 様、諸角 始子 様、掛橋 竜也 様、
丸毛 波津 様、司城 不二 様、大島 玲子 様、鈴木 謙一 様、
神谷 之和 様・和子 様、渡部 一元 様、佐々木 厚子 様、
仲 宏治 様、長坂 富紗子 様、塩崎 良子 様、小久保 薫 様、
小田 正人 様・瑞穂 様、飯田 キエ子 様、小野 由紀子 様、
仙頭 邦子 様、伊野 秀信 様、田中 マサ子 様、原田 洋子 様、
中山 進 様、波多野 順治 様・栄子 様、武藤 金一 様、
小林 高史 様、小倉 英克 様、細山 公子 様、渡辺 朝美 様、
湯川 揚子 様、羽鳥 貞子 様

寄付をくださった方 國枝 三代子 様

※10/1～10/31にご入金くださった方

ご協力ありがとうございました

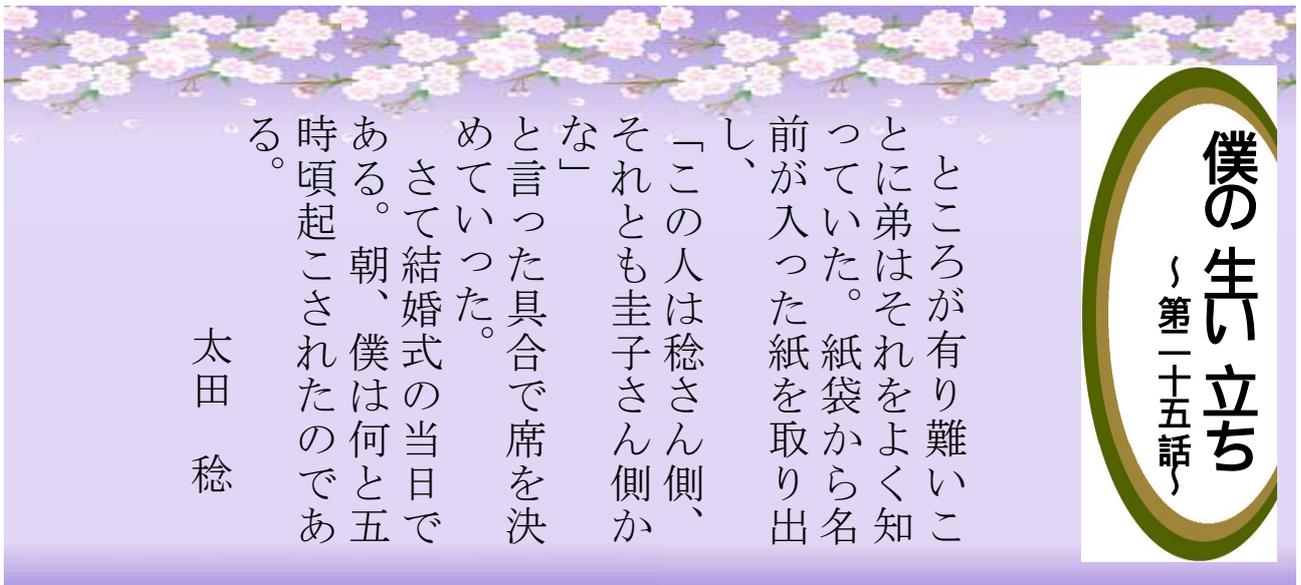


tigpig

スケジュール

十一月六日（水）・・・港区長懇談会
十一月六日（水）・・・総務委員会
十一月十三日（水）・・・運営委員会
十一月三十日（土）・・・風の子会35周年記念パーティー
田中 聡





僕の生い立ち
（第二十五話）

ところが有り難いこ
とに弟はそれをよく知
っていた。紙袋から名
前が入った紙を取り出
し、
「この人は稔さん側、
それとも圭子さん側か
な」
と言った具合で席を決
めていった。
さて結婚式の当日で
ある。朝、僕は何と五
時頃起こされたのであ
る。

太田 稔

Ryo's エニグマルーム

四角に切れ（実際の四角に切れとは見た目・方法が違うことをご了承下さいませ。）

- ・盤面を数字を一つずつ含む長方形（正方形を含む）に分割する
- ・数字は一マスの面積を一とした長方形の面積になるようにする

					8				2
	4	4							
	4					2	3		
			8				5		
					10				
				5					
		6				3			
		2	9					6	
							3	2	
6				8					

バリアフリーよもやま話 第25回 「プルタブで車いす寄付」

岡本 明

ジュースやビールのアルミ缶のプルタブ（プルトップ）を集めると車いすを寄付できる、ということを知ったことがある方も多いと思います。なぜプルタブなのかというと、昔はアルミ缶のプルタブは開けると缶から外れてしまうものだったので、道端にポイ捨てされることが多く、これを動物が呑み込んでしまったり、裸足で遊んでいる子供が足を怪我したりする問題がありました。これに対処しようということから始まったのだといわれています。



プルタブのような身近なもので人の役に立つことができる、助け合いへの意識を高められる、ということで、プルタブ回収を積極的進めている学校、企業も多いのです。また、プルタブなら集めても保管にそれほど多くの場所をとらないし、回収団体に送るのも簡単、という利点もあります。

プルタブ・アルミ缶回収で車いす寄付活動を行なっている団体はいくつかありますが、その一つ（一般社団法人）環公害防止連絡協議会では平成3年から25年までの間に、2、305台の車いすを寄付してきたそうです。

いったいどのくらい集まると車いす1台になるのか、ちょっと調べてみると、プルタブだと約160万個（重さ約800Kg、ドラム缶約7本）でジュラルミン製の車いす1台と交換されるということです。

さて、この運動はなかなか良いことで、大いに広がってほしいと願う人も多いのですが、これは詐欺だとか、いたずらだという話もあり、疑いの目で見える人もいます。実際にいたずらもあったと聞きます。また批判的意見もあります。批判の多くは、現在のアルミ缶のプルタブは開けても外れないようになってきているので、そもそものポイ捨て危険防止の意味がなくなっているのではないか、というものです。プルタブを無理に外すと指を怪我したりして、かえって危険だということも挙げられています。さらにプルタブだけを回収する効率の悪さも指摘されています。回収するならプルタブだけでなく、アルミ缶そのものにすべきだ、ということです（回収団体では現在はプルタブだけではなく、アルミ缶そのものの回収も進めています）。運動が始まった当時と違って現在はもはや車いすは不足していない、寄付対象をもっと役に立つ別のものにすべきだ、という意見もあります。

このように、一見すると良いことで問題もなさそうなことでも、いろいろな意見があるものです。世の中、単純ではありませんね。いずれにしても福祉をもっと身近なものにしていく運動が広がってほしいと思います。

わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語の dormitory つまり寮という意味】

第58話 5年目終盤 ～ 卒論エトセトラ ～

卒業に向けて励んでいく際の大きな階段の中の一つが卒業論文の執筆だった。3年時から入っていたゼミでは卒論合宿というものがあり、先輩たちの卒論を読む機会が何度もあった。その度に自分にこれだけのものが書けるのだろうかという不安感に襲われた。けれども不安になってばかりいるわけにもいかず、ゼミ仲間のタイキやフクマ、オザワなどに何度も相談し、プロットを形作っていった。ゼミの教授も僕のことを一定の評価をしてくれていて、進捗状況を適宜チェックしてくれた。そんなふうにして、卒論執筆は何とか進めていくことができた。

秋の終わりの寮祭ではマリと飲みながらいろんな話をした。マリはそれまでの恋に区切りをつけて新しい恋に向かっていた。僕もトモとのややこしい顛末をざっくりとまとめて語って、互いにコップをカチリと合わせた。この年の寮祭ではキイチがやたらとはしゃいでいるように見えた。寮祭の伝統であるオカマバーを仕切り、キイチ自らもオカマになってバーを盛り上げていた。俺も昔はオカマになったよな、と懐かしい思いに駆られながらキイチとコップを合わせると、酔っ払った勢いなのか突然僕の頬にキスをしてきた。酔っ払いに、しかも男からキスなんかされても嬉しくねえよ、と文句を言いながら、けれどもキイチはキイチなりに前に進もうとしているんだなど、改めて思った。

学祭では、ゼミの教授室で盛り上がった。簡単な鍋が準備されていて、ビールや日本酒などが酌み交わされていた。この日は卒論のことは忘れて（けれども頭の隅の方にはしっかりとひだのようにこびりついてはいたけれど）その場を楽しんだ。「ヅカシ、別のところに飲みに行こうぜ」タイキに誘われて部屋を出る。教授棟を出かかったあたりで「ワタルく～ん」といきなり誰かに抱きつかれる。学内で知り合った学生だが、名前もうろ覚えな程度の関係だ。「おまつりなんだから、めいっぱい楽しまなきゃね」言いながらふいにキスされる。「ああ、そっちも盛り上がってるみたいだね」彼女は彼女で十分に出来上がっているようだったので、僕はタイキの後を追った。

「ヅカシ、カラオケ行こ！」秋が終わり、冬の寒さが感じられ始める頃、ふいにトモがそう言って僕を誘う。部屋の明かりを暗くしてエンヤを BGM にしながら卒論執筆に集中している、そんな頃だ。論文というものを書いたことなかった僕は、少し書いては立ち止まり、立ち止まってはまた書き連ね、ということを繰り返していた。「まあ、1時間くらいなら、付き合ってもいいか」自分がどこにいるのかわからないような思考のジレンマに陥っていたので、気分転換も兼ねてトモの誘いに徐々に応える。酒は控えて煙草を啜えながら「たまにはこういう息抜きも必要だな」と呟きながら、トモが熱唱しているのをぼんやりと見つめる。

そんなふうにかが秋が過ぎていき、年が暮れ、明けていった。卒論執筆は順調に進み、ゼミにも毎週欠かさず出席し、他の講義もできる限り出た。それでも、卒業にはあと少し単位が足りなそうだということが徐々にわかってきた。それでも必死に講義に出て、卒論を書き続け、5年目の年度末に向かっていった。

～ 第59話へつづく ～

夕会便り

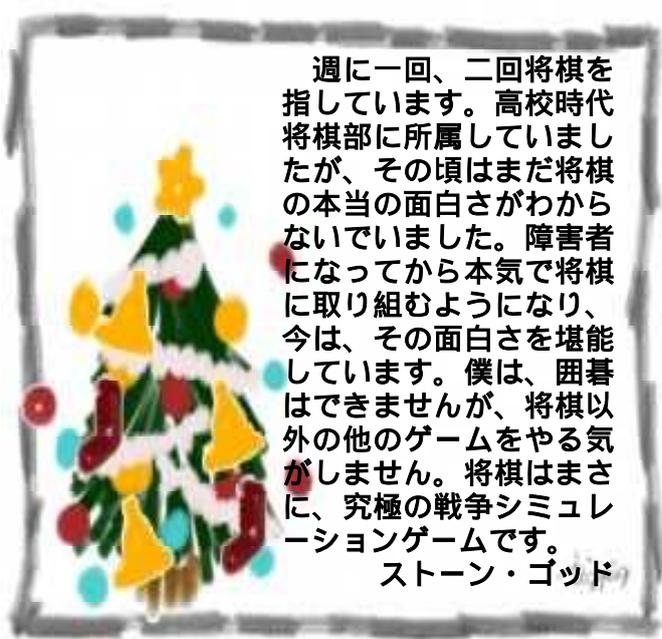
10月の夕会は1週目と3週目の2回のみ。いずれも祭りの際の時間配分について話し合った。区民祭りは例年と比べて大幅にスタンスを変えた。祭りを楽しむグループと販売に徹するグループに二分したのだ。どちらのグループも満足できたかどうかは区民祭り報告にて。ヒューマンぷらざまつりは、これまで1時間強で交代していたローテーションを2時間1交代制にした。こちらの報告も別項にて。



小野塚 航

エニグマ解答であいんす～

					8			2
	4	4						
	4					2	3	
			8				5	
					10			
				5				
		6				3		
		2	9					6
							3	2
6				8				



ひとりぼっちの障害者をなくそう
特定非営利活動法人・風の子会
 ~定価40円~

編集者
 石神 太田 久村 松田 右田 幸栗 和頭
 一 間 亮 恵 高 太郎 彦 史 子 司 彦 庸 稔 郎
 太田 小塚 田中 野田 塚
 吉柳 三塚 田中 野田 塚
 久敬 直愛 圭
 代事人 基 聡 航 子

編集人：【高浜生活実習所】
 生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075
 東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階
 TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://kazenokokai.blogspot.com>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
 東京都世田谷区砧6-26-21

